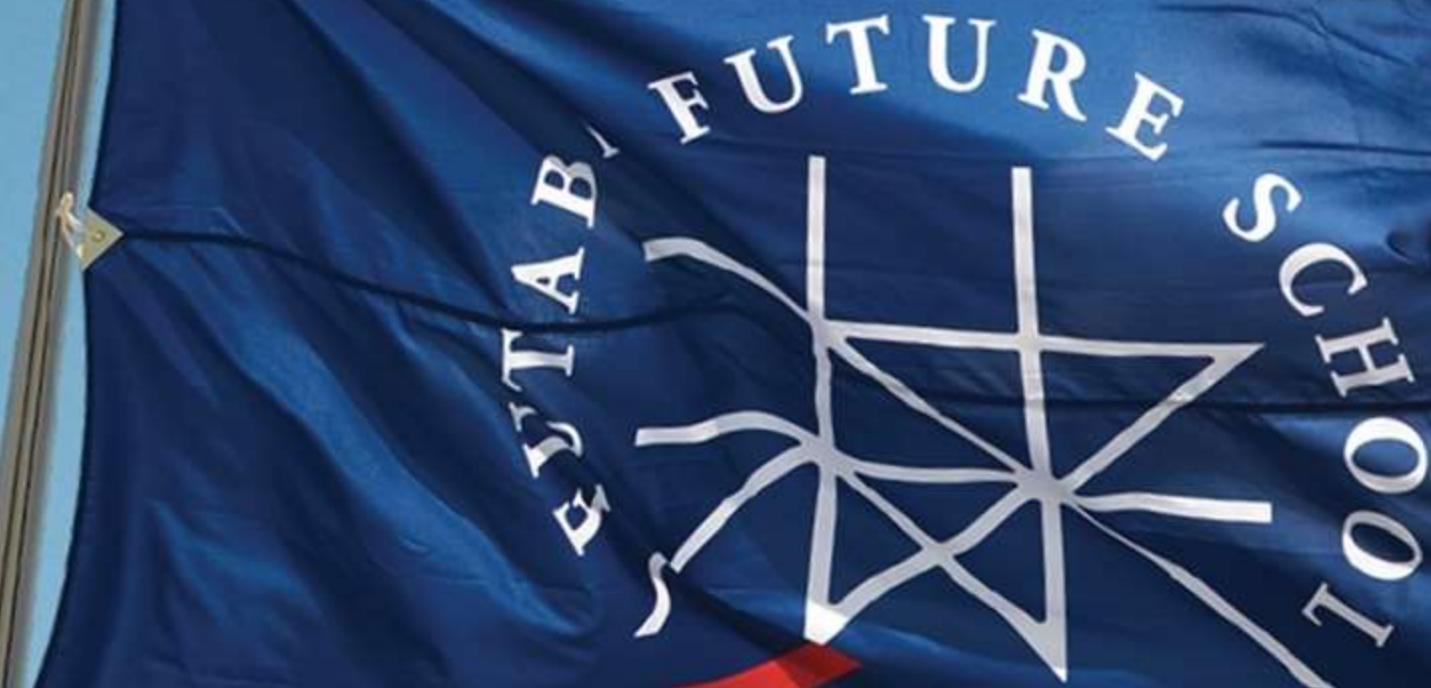


福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会  
第27回会議資料 R6.6.21@榎葉町コミュニティセンター



2023・2024年度活動報告資料

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

# 2023年度の主要トピックス

---



## 1 地域に根差した勢いある教育活動の推進

双葉郡の課題を学び解決に向けたプロジェクトを実施した。探究成果はマイプロで過去最高評価。また、本校会場で様々な行事が実施された。

## 2 WWLコンソーシアム構築支援事業の開始

2015年の開校時から続く文部科学省事業のSGHやグローバル型等の実績を生かし、今年度からWWL拠点校としての取組を始めた。

## 3 アフターコロナにおける生徒たちの大活躍

新型コロナウイルスが5類感染症に移行したため、生徒たちは部活動等（運動部も文化部も）で大いに活躍し、素晴らしい実績を残した。

## 4 数値から見る特色ある教育活動の成果

ルーブリック評価、卒業時のアンケート調査、地域人材育成指標、進路実績など、数値面からも特色ある教育活動の成果が現れている。

## 1 地域課題を演劇で表現

高校1年次の学校設定科目「地域創造と人間生活」の授業において、1年生全員が「双葉郡8町村バスツアー」で地域課題を学び、グループごとに課題を演劇で表現した。

- ・4/28 双葉郡8町村バスツアー
- ・5・2～7・24 課題を取材し、演劇を創作。
- ・7/25 演劇成果発表会  
20班に分かれ演劇発表。後日振り返り。



## 2 地域課題解決のプロジェクト

生徒たちは、6つのゼミに分かれそれぞれに設定したテーマに従い、地域課題解決のプロジェクトを実施した。高校3年生は、探究活動の成果を校内の発表会で報告し、中には各種コンテストにおいて成績を収める生徒もいた。

- ・9/24 未来創造探究生徒研究発表会
- ・3/23 全国高校生マイプロジェクトアワード  
2023全国summit 優秀賞(全国6位)





## 3 本校会場で各行事を実施

新型コロナウイルスが5類感染症に移行し本校会場で各行事が対面で開催された。

- ・7/25 ふたば生徒会連合  
生徒会の生徒たちが一堂に会して交流。
- ・7/30 絆づくり交流会  
郡内の小学生が本校アリーナ1に集結。
- ・8/3 中高生交流会  
双葉郡の中高生のため、著名人が来校。



7/25ふたば生徒会連合



7/31絆づくり交流会



8/3中高生交流会



## 3 本校会場で各行事を実施

- ・12/2 ふるさと創造学サミット  
去年に引き続き2度目の双葉郡内での開催。  
双葉郡内の小中高校生が一堂に会しました。  
子どもの多さに驚き、感慨深い光景でした。
- ・1/22 双葉郡子供未来会議  
子どもたちの教育のために先生方が研修。  
より良い教育を行うため、皆熱心に参加。



※ふたば未来で過去最大数の双葉郡行事を開催！





# 【トピックス2】WWLコンソーシアム構築支援事業開始(R5~7)



<b>研究開発 構想名</b>	原子力災害からの復興を果たし、新たな社会を創造するグローバル・リーダーの資質・能力の育成	<b>目的</b>	① 本県から東北地区に展開するグローバル人材育成のアドバンスト・ラーニング・ネットワークの形成 ② 探究・海外研修・APを体系的に位置づけたカリキュラム開発 ③ 地域や世界の課題解決に貢献する人材の育成 ④ 「教育」と「創造的復興による持続可能な地域実現」の相乗効果創出
<b>育成 人材像</b>	地域や世界の課題と自己の夢とを重ね合わせ、当事者として行動する市民性 立場・価値観の違いによる分断や対立を止揚する協働的ネットワーク構築力 地域の資源を見出し、世界に新たな価値を創造する力		

機構・地域・大学等と協働したグローバル課題解決探究プロジェクト

- ④ 「教育」と「創造的復興による持続可能な地域実現」の相乗効果創出
- ③ 福島国際研究教育機構をはじめ、地域や全国・海外で世界と協働しながら活躍する人材の輩出

高校生国際会議の開催(国連関係者・海外連携校等参加)

**事業協働機関**

**福島国際研究教育機構(F-REI)**

- ・ 探究への専門的助言
- ・ 研究者と生徒による協働プロジェクト
- ・ キャリアカフェ

**東北大学**

- ・ より高度な探究へ向けての専門的助言
- ・ 生徒主催双葉郡FWへの大学留学生の参画
- ・ 大学授業先取り履修と単位認定

**早稲田大学**

- ・ 探究への専門的助言(リエゾン・リサーチ常駐)
- ・ 協働での創造的復興探究プロジェクト[ふくしま学(案)会等]

**福島大学**

- ・ 個に応じた探究へ向けての専門的助言

**NPOカタリバ**

- ・ カリキュラム共同開発

**大学教育の先取りによる  
高度な学びの実施**

- ・ 大学と連携したアドバンストプレイズメントの導入  
「学問論演習など」(東北大)
- ・ その他文理横断的な高度な学び(東北大・早稲田大学)

**福島をフィールドとした  
グローバル探究**

- ・ 大学連携による文理融合した高度な学問との接続を強化した探究カリキュラムの実践
- ・ 地域課題の取材と演劇を通じて、「創造力」等の資質・能力を強化
- ・ アカデミックライティング等のスキル育成強化

**世界をフィールドとした  
グローバル探究**

- ・ 探究ゼミと連動したプロジェクト型海外研修
- ・ オンライン・対面でのグローバル課題探究授業連携
- ・ 生徒主催の双葉郡FW(東北大、UNIS)
- ・ 外国人指導者等によるグローバル課題やライティングスキル育成

**連携校(海外)**

**国連本部  
Civil Society Unit**

世界の課題の最前線へ向き合っている国連職員と意見交換、議論を行い福島の課題と世界のつながりを構造的に理解する。

**国連国際学校  
UNIS(アメリカ)**

「持続可能な社会づくり」をテーマに地球規模での課題について世界の同世代と意見交換、議論を行う。差別や対立・分断について米国の現状を学び乗り越える方策を探る。

**② 探究を軸としたカリキュラム編成と海外研修・APを体系的に位置づけたカリキュラム開発**

<b>原子力災害・伝承探究ゼミ</b> <small>原子力災害からの復興や廃炉など福島固有の問題を軸にしながら地域社会の在り方を探究する。</small>	<b>共生社会探究ゼミ</b> <small>地域に暮らす人と人との関係性や、ウェルネス(健康・福祉・医療にとどまらない社会的環境の豊かさ)について探究する。</small>
<b>地域社会・経済産業探究ゼミ</b> <small>断絶してしまった地域コミュニティの再構築について、生業や農商工業などの産業振興や社会システムの観点から探究する。</small>	<b>人間科学・文化・芸術探究ゼミ</b> <small>人間の心理・行動の分析や、人間が生み出す芸術・アートを生かした社会のあり方について探究する。</small>
<b>自然科学・地球環境探究ゼミ</b> <small>研究開発拠点が集中する地域特性を活かし、自然現象の真理や、人間社会と地球環境との関係性を探究する。</small>	<b>スポーツ医・科学探究ゼミ</b> <small>スポーツ医・科学に基づいたハイパフォーマンスの実現や、トップアスリートの育成における社会環境等について探究する。</small>

事業拠点校：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

**連携校(県内)**

- 福島県立福島高等学校
- 福島県立安積高等学校
- 福島県立会津高等学校
- 福島県立会津学鳳高等学校・中学校
- 福島県立磐城高等学校

**① 福島アドバンスト・ラーニング・ネットワークの形成**

- 構想目的の共有
- カリキュラム改革(探究カリキュラム強化)
- 連携大学AP科目履修
- 教員指導力向上

**管理機関**  
福島県教育委員会

宮城県仙台二華中学校・高等学校  
山形県立東桜学館中学校・高等学校

緊密な「横のネットワーク」

シームレスな「縦のネットワーク」

連携

連携



# 【トピックス2】WWLコンソーシアム構築支援事業開始(R5~7)



福島の問題と世界の課題を重ね合わせ、未来創造型の探究・課題解決の実践活動を展開する。これまでのゼミを学術分野で再編成。福島国際研究教育機構(F-REI)の研究分野ともリンク。

## 原子力災害・伝承探究ゼミ

原子力災害からの復興や廃炉など福島固有の問題を軸にしながら地域社会の在り方を探究する。

**科学技術による発展と不確実なリスクへの対応**や、**廃炉の進め方、廃炉推進の際の合意形成のあり方、偏見や風評、原子力災害等の厄災からの教訓の後世・世界への発信と伝承**などの課題を設定し、**トランス・サイエンス**の時代における課題の解決に向けて探究と実践を行う。

## 共生社会探究ゼミ

地域に暮らす人と人との関係性や、ウェルネス(健康・福祉・医療にとどまらない社会的環境の豊かさ)について探究する。

**対立や分断を超えて多様性を認め合う包摂的な共生社会の実現**や、**市民性とアイデンティティの確立によるコミュニティの真の自立(自助・共助・公助)**、**スポーツによる健康増進や豊かなコミュニティの実現**などの課題を設定し、課題解決に向けて探究と実践を行う。

## 地域社会・経済産業探究ゼミ

避難や少子高齢化等により断絶してしまった地域コミュニティの再構築について、生業や農商工業などの産業振興や社会システム(仕組み)の観点から探究する。

地域の農林水産資源を活用した6次産業化等による新たな価値の創造や、**イノベーションによる新たな産業の創出、循環型の社会・経済システムの実現**などについて課題を設定し、その解決に向けて探究と実践を行う。

## 人間科学・文化・芸術探究ゼミ

人間の心理・行動の分析や、人間が生み出す**芸術・アートを生かした社会のあり方**について探究する。

**差別・偏見のメカニズムの解明**や、**芸術・アートを生かしたウェルビーイングを追求するコミュニティの実現**、地域の**文化財や伝統芸能などによる地域のアイデンティティの確立**などの課題を設定し、課題解決に向けて探究と実践を行う。

## 自然科学・地球環境探究ゼミ

自然現象の真理や、人間と自然環境との関係性を探究する。

**自然科学の究明による人間社会と調和した環境の実現**や、**汚染からの環境回復、気候変動、再生可能エネルギーの研究開発拠点が集中する地域特性を活かした循環型のエネルギー・社会の実現**、**望ましい人間社会と地球環境の関係性**などの課題を設定し、持続可能なエコシステム構築に向けて探究と実践を行う。

## スポーツ医・科学探究ゼミ

スポーツ医・科学に基づいた**ハイパフォーマンスの実現**について探究する。

**スポーツ医・科学にもとづく意図的なトレーニング**や、**トップアスリートとすそ野の好循環による育成環境の実現**、**部活動などの育成年代の社会環境の課題**などについて、**スポーツバイオメカニクス、生理学、栄養学、医学、心理学**などの視点から課題解決に向けて探究と実践を行う。

## 1 新たな連携先「東北大学」

WWL事業の開始にあたり、福島県教委は東北大学高度教養教育・学生支援機構と教育連携協定を締結。協定に基づく取組として、今年度は東北大学の講義「学問論演習」に本校生と福島高校の生徒が参加。この講座では広く学問探究の姿勢を学び、成果報告会も行い、最終的にオープンバッジ(証明書)が発行されました(本校は5名)。



福島県教委が東北大と連携



ふたば未来の様子



福島高校の様子



## 2 F-REI・イノベ機構など多様な連携

- ※WWL事業以外の多様なグローバル教育
- ・令和5年4月に浪江町に開所した福島国際研究教育機構(F-REI)とも新たに連携して山崎理事長による生徒及び教員向けのトップセミナーを本校会場で開催。
- ・イノベーションコースト構想シンポジウムを本校会場で開催し、本校生徒が講演。
- ・早稲田大学ふくしま浜通り未来創造リサーチセンターと連携し1F地域塾を本校で開催。



F-REIトップセミナー



イノベシンポジウム開催



早稲田大連携1F地域塾

## 3 多様な連携校との交流促進

- ※WWL事業以外の多様なグローバル教育
- ・ニュージーランドの連携校ブロックハウスベイインターメディアイトの生徒が来校し、初めて海外連携校との相互交流を実施。
- ・ドイツの連携校エルンストマツハギムナジウムとも連携。日本の現状を発信。
- ・広島研修では、これまでの広島国泰寺高校に加え、新たに崇徳高校とも連携開始。崇徳高校は1F地域塾の際に本校訪問。





## 1 運動部の輝かしい実績

- ・バドミントン女子ダブルスで、須藤・山北組がアジアジュニア優勝、世界ジュニア3位、全日本総合3位と破竹の活躍を披露。
- ・レスリングU17世界選手権で、阿久津選手が優勝。本校から世界チャンピオンが誕生。
- ・バドミントン男子団体で見事優勝。エース不在の中、チームワークで栄冠を手に。他にも、男子サッカーがF1リーグで3位に、前年度コロナで棄権した野球部はベスト8。



アジアジュニアで優勝



U17世界選手権で優勝



インターハイで優勝

## 2 文化部も様々に活躍

- ・中学校特設ディベート部が東北大会で優勝し、全国大会出場。予選を勝ち抜いて、本選出場し、見事全国ベスト8進出。
- ・高校情報科学同好会が、初めてロボットテストフィールドで開催された、EVカーレースにチャレンジし、見事完走。
- ・高校社会企業部は、全国只見線サミットに参加し、プレゼン最優秀賞を受賞。



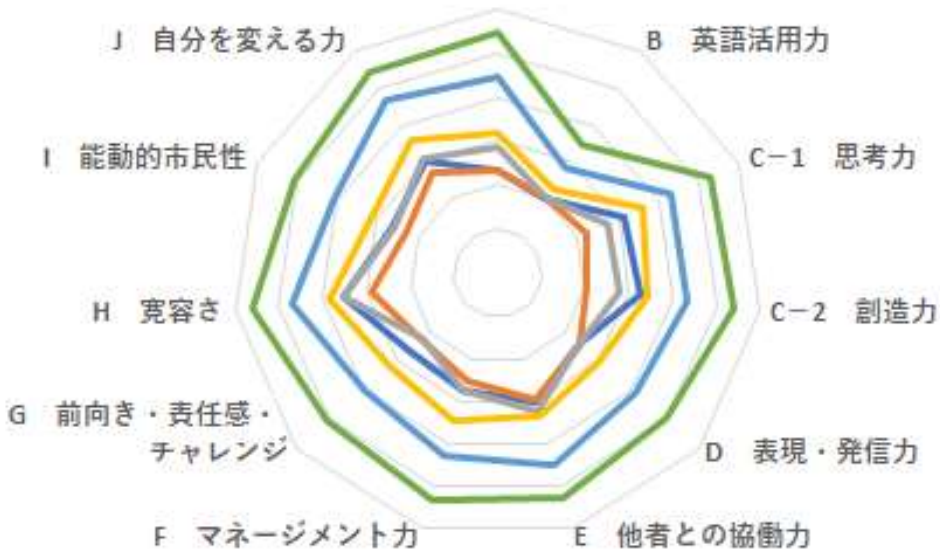


## 1 ルーブリック評価

定期的に生徒がルーブリックの各資質・能力について自己評価を実施し、自身の成長要因について分析している。思考力、創造力、前向き・責任感・チャレンジの項目が顕著に伸長しており、特に地域での探究や実践を通して生徒は成長している。

— 1年6月 — 1年1月 — 2年6月  
— 2年11月 — 3年4月 — 3年10月

A 社会的課題に関する知識理解



ルーブリック調査(7期生・令和6年3月卒業生平均)

## 2 卒業時のアンケート調査

卒業時にアンケート調査を実施し、本校の学びによって社会性や自己肯定感の高まったと8割弱の生徒が回答している。直接比較はできないが、社会的関心の全国平均よりも高い傾向にある。

■ 4 大きく影響した ■ 3 ある程度影響した  
■ 2 あまり影響しなかった ■ 1 全く影響しなかった

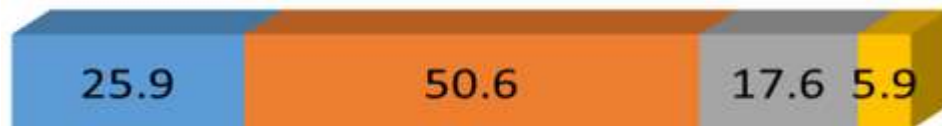
Q. 社会とどう関わっていくかを見出した

⇒肯定的回答 76.5%



Q. 自分の価値観を考えることに繋がった

⇒肯定的回答 76.5%



※7期生(令和6年3月卒業)本校舎生、令和6年2月28日調査

比較 日本財団 世界の18歳意識調査の日本の結果 (2021年実施)

自分は責任がある社会の一員だと思う **48.4%**  
自分の行動で国や社会を変えることができる **26.9%**

## 3 成果目標(アウトカム)

	項目	2023年	目標値
a	本校で規定する人材育成要件・ルーブリックレベルの3年次最終調査における平均値	<b>2.56</b>	<b>3.5</b>
b	卒業時における、将来的な地域への貢献意識（社会との関わり）や、本事業による自身の価値観への影響の肯定的意見の割合	<b>76.5%</b>	<b>70%</b>
c	本事業に関する保護者アンケートによる肯定的意見の割合	<b>81.7%</b>	<b>70%</b>

## 4 学校の活動指標(アウトプット)

	項目	2023年	目標値
a	地域の個人、団体との協働による課題探究プロジェクト数	<b>58pj</b>	<b>50pj</b>
b	視察、研修、発表会聴講等で来校する教育関係者、地域関係者等の人数	<b>467人 + a</b>	<b>250人</b>
c	生徒の外部発表、コンテスト応募件数	<b>45件</b>	<b>45件</b>

## 5 地域の活動指標(アウトプット)

	項目	2023年	目標値
a	本校の活動に関わる地域の活動団体または個人の年間のべ件数	<b>235人 + a</b>	<b>200人</b>



# 【トピックス4】数値から見る特色ある教育活動の成果

	進学					就職			留学・その他
	四年制大学			短期大学	専修学校	プロ・実業団	企業	公務員	
	国公立	私立	計						
7期生	9	56	65	2	25	10	9	0	3
6期生	12	65	77	3	36	5	15	3	6
5期生	8	59	67	3	34	7	21	0	6
4期生	2	66	68	7	26	6	18	8	4
3期生	8	64	72	3	36	10	17	1	1
2期生	8	63	71	2	19	4	23	3	4
1期生	11	45	56	8	39	6	23	3	5

←R6年3月

【国公立大学】 北海道大学 東北大学 弘前大学 秋田大学 会津大学 福島大学 福島県医大学  
 \*合格のみも掲載 茨城大学 筑波大学 宇都宮大学 千葉大学 東京外国語大学 東京学芸大学 等

【私立大学】 早稲田大学 立教大学 青山学院大学 明治大学 中央大学 法政大学  
 津田塾大学 専修大学 日本大学 日本体育大学 仙台大学 立命館大学  
 関西学院大学 東海大学 東洋大学 関東学院大学 神奈川大学 等

【短期大学】 弘前医療福祉短期大学部 米沢女子短期大学 会津短期大学部 いわき短期大学 等

【専修学校等】 磐城共立高等看護学校 松村看護専門学校いわき准看護学校 日本調理技術専門学校  
 福島県農業総合センター農業短期大学 福島県立テクノアカデミー会津・浜 等

【就職】 会津オリンパス あぶくま信用金庫 イオンリテール東北 JAさくら農業協同組合  
 東京電力HD トヨタ自動車 福島イノベーションコースト構想推進機構 高野病院 等

【プロ・実業団】 NTT東日本 再春館製薬 トナミ運輸 日立化成 ヨネックス アルビレックス新潟  
 ジェフユナイテッド市原・千葉 日テレ・ベレーザ V.ファーレン長崎 福島レッドホープス 等

【公務員】 双葉郡水道企業団 福島県警察官 海上自衛隊自衛官候補生 陸上自衛隊自衛官候補生 等

# 2024年度6月までのトピックス



## 1 募集定員を満たして2024年度がスタート

中学校・高校とも、双葉郡内の生徒や震災により避難した生徒を含め募集定員一杯の新入生を迎えて2023年度がスタートした。

## 2 震災後生まれの生徒も含め地域課題を学ぶ

震災後に生まれた中学1年生を含め、東日本大震災の記憶のない生徒たちが、フィールドワークを通して、地域課題を学んだ。

## 3 新たなゼミ編成による研究発表会の開催

新教育課程やWWL事業に合わせて再編した新たなゼミ編成で探究してきた高校3年生による生徒研究発表会を5か月前倒して開催した。

## 4 創立10年の節目のふたば未来学園の決意

創立10年目を迎え、同時に三島長陵校舎の生徒が帰還し、中学校一期生が高校3年となり、学園は形の上では完成したが、課題は多い。



## 中学・高校とも定員一杯の新入生

令和6年度新入学生

- ・中学校 60名(双葉郡枠20%程度含)
- ・高等学校 160名(連携型選抜30%程度含)

※高校では、2年連続で定員160名を上回る志願があり、在籍生徒は過去最大人数の629名で令和6年度がスタートした。双葉郡ゆかりの生徒が受験できる連携型選抜では志願者35名が合格した(寮生も開校後最大人数の223名となった)。



令和6年度入学式



中学生誓いの言葉



入学式で掲げた休校5校の校旗

## 1 中学校フィールドワーク

中学1年生は震災後に生まれた世代で、2・3年生を含め、東日本大震災の記憶のない生徒が双葉郡内のフィールドワークで地域課題を学習した。中1生は2度目の校外行事。

- ・4/16・17 中学1年オリエンテーション合宿
- ・6/13・14 中学1年フィールドワーク
- ・7/11 中学2年フィールドワーク予定
- ・7/11 中学3年フィールドワーク予定



6/13中学1年FW

## 2 高校1年双葉郡バスツアー

100名程度の高校から入学した生徒たちを含め、高校1年生全員が「双葉郡8町村バスツアー」を行い、震災等に係る地域課題について学習した。この後、学んだ課題を演劇で発表するため、プロの劇団員のアドバイスを受けながら演劇を創作し、7月に発表会を開催予定。

- ・6/14 高校1年双葉郡8町村バスツアー
- ・7/19 演劇成果発表会(予定)



6/14双葉高校内視察



## 1 生徒研究発表会の開催

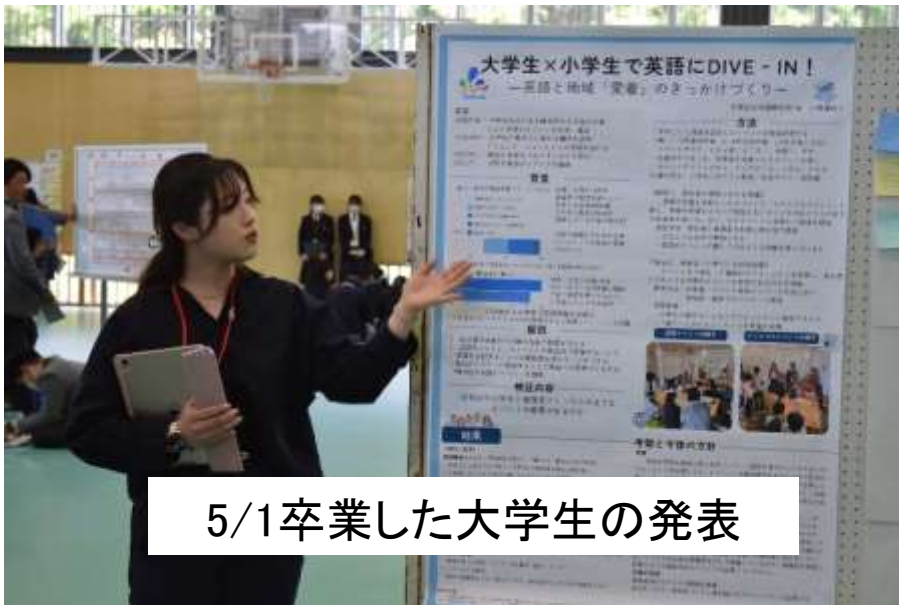
生徒が探究の成果を卒業後の進路に生かすことができるよう、生徒研究発表会を5カ月前倒して開催した。県内外の他校生や卒業生の研究発表、海外研修の報告等も実施。

- ・5/1 未来創造探究生徒研究発表会  
(参加者) ふたば未来学園中高全生徒  
宮城・山形・県内の高校生  
ふたば未来学園卒業生

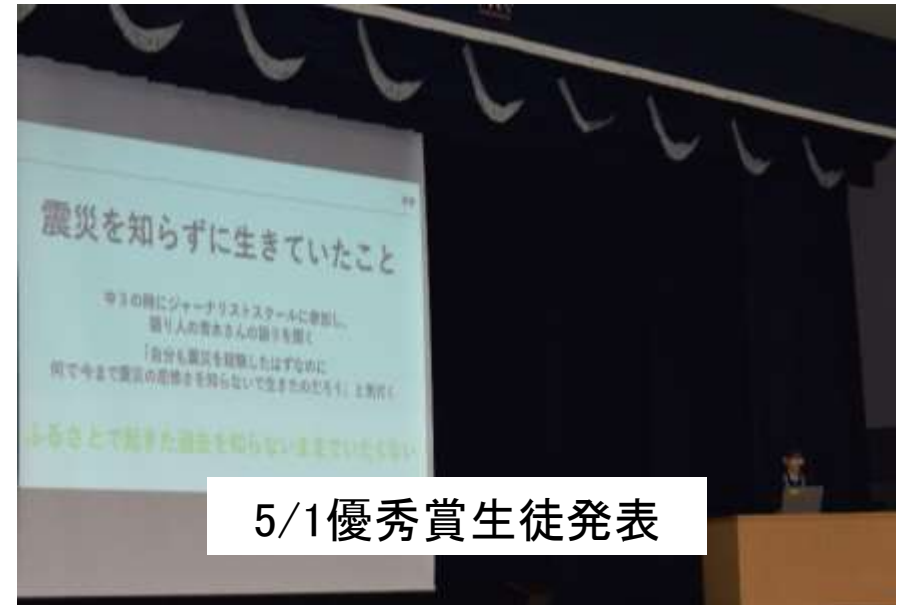
## 2 探究内容の質的变化と向上

ゼミ編成を学術分野で再編し、探究活動を進めてきた。生徒は学んできた地域課題や震災の教訓等を踏まえ、専門的に研究を進めて探究を深化させ、質的向上を図った。

- ・最優秀賞 「双葉郡の水生昆虫」  
優秀賞 「ふるさとを語り継ぐ」  
「ウッドストロープロジェクト」  
発表賞 「大熊いちごプロジェクト」



5/1卒業した大学生の発表



5/1優秀賞生徒発表

# 【トピックス4】 創立10年の節目のふたば未来学園の決意



- 平成25年 7月 「福島県双葉郡教育復興ビジョン」取りまとめ  
12月 中高一貫校に関する検討会(福島県)の設置
- 平成26年 6月 中高一貫校に関する検討会構想とりまとめ(教育課程、生徒募集方針等を決定)  
7月～ 第I期 施設整備(高校)(広野中学校校舎の改修・仮設校舎の整備等)
- 平成27年 4月 福島県立ふたば未来学園高等学校開校**  
※ 定員(120名)を超える152名の出願。急遽定員を160名へ拡大するとともに、志願者は受検を経て全員入学。  
開校に伴い双葉地区県立高校5校(サテライト校)は募集停止
- 4月 文部科学省からスーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)に指定  
6月 平成31年度を目途に併設型中学校を開校することを公表  
9月～ 第II期 施設整備(本校者の整備)
- 平成31年4月 福島県立ふたば未来学園中学校開校、本校舎に移転**
- 令和 2年4月 文部科学省から高等学校教育改革推進事業(グローバル型)に指定  
令和 3年4月～ JFAアカデミー福島(本校三島長陵校舎)が段階的に帰還開始  
令和 4年4月 中高一貫一期生が高校入学  
令和 5年4月 文部科学省からWWLコンソーシアム構築支援事業・拠点校に指定(東北初)  
**令和 6年4月 JFAアカデミー福島(三島長陵校舎)本校舎帰還、中高一貫1期生が高校3年**  
令和 7年3月 中高一貫一期生が高校卒業

※令和6年度の開校10年目にようやく完成年度を迎え、今後の学校経営が鍵



## ○ 10年の節目が完成年度

- ・1月末に三島長陵校舎修了式を行い、令和6年度から三島長陵校舎が本校舎に帰還。
- ・平成31年4月にふたば未来学園中学校が開校し、盛大に開校式を挙行了。今年4月で6年目、中学校1期生が高校3年になり、ふたば未来学園は形の上で完成した。

※しかし、ここはゴールではなくスタート地点。廃炉が終了する30年後まで輝き続ける学校になるため感謝と挑戦を大切にする。



三島長陵校舎修了式



H31ふたば未来中開校式



H31ふたば未来中開校式

## 1. 令和7年度以降の学校経営に不可欠な支援の継続

- ふたば未来学園は、令和6年度に三島長陵校舎生徒の帰還と中高一貫生徒の全学年在籍でいわゆる形上の完成年度を迎えたが、ここからが実質的な学校経営のスタートである。これから双葉郡内への住民の帰還や移住が一層進むことを踏まえ、輝き続ける学校の維持には各方面からの支援の継続が必要。
- **特に特色ある教育活動(海外研修含)や寄宿舎運営、教育相談に係る財政支援の継続は不可欠である。**

## 2. 廃炉作業が続く中での活力ある地域づくり

- 本校は、福島復興再生特措法等が目指す域外からの住民の移住等の新たな活力の呼び込みにも貢献。今後30年程度続く廃炉作業の終了まで活力ある地域づくりには、教育を軸として双葉郡の人材育成と域外人材の協働を通じて、新たな活力の創造の基盤となる、本校のような地域の教育拠点が必要である。

※ 関連： 福島復興再生特別措置法（令和2年3月3日一部を改正）

## 3. 福島イノベーション・コースト構想・福島県双葉郡教育復興ビジョンの実現

- 福島イノベーション・コースト構想や福島県双葉郡教育復興ビジョンの実現には、地元から構想等を推進する人材を育成することが不可欠。本校生は、探究活動と海外研修が密接に連携したカリキュラムによりグローバルな協働力や発信力を備え、海外での福島の現状発信により風評・風化対策にも貢献しており、構想やビジョンの推進に寄与する人材として育成する必要がある。

※ 関連： 与党「復興加速化のための第10次提言」（令和3年7月）、  
「復興・創生期間後における東日本大震災からの復興の基本方針」（令和元年12月20日 閣議決定）等

## 4. 福島国際研究教育機構 F-REI（エフレイ）との連携

- 本校は、福島国際研究教育機構F-REI(エフレイ)の世界レベルの研究者との連携による教育プログラム開発だけでなく、研究者等の子育ての環境や多言語対応などの生活環境基盤としての役割も重要。

※ 関連： 「国際教育研究拠点に関する最終とりまとめ」（令和2年6月8日、福島浜通り地域の国際教育研究拠点に関する有識者会議）



福島県立ふたば未来学園は  
廃炉が終わる30年後まで  
輝き続ける学校を目指す！

ふたば未来学園 検索 ←WEBをチェック

「感謝」と「挑戦」を大切にしていきたい。

**We value gratitude and challenges.**

